

日本工営グループが英国で実施する系統用大型蓄電池事業への参画

～日系企業の出資および融資により実施する初の系統用大型蓄電池事業～

芙蓉総合リース株式会社（本社所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：辻田 泰徳、以下「芙蓉リース」）は、今般、国内最大の総合建設コンサルタントである日本工営株式会社（本社所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：新屋 浩明、以下「日本工営」）の完全子会社 Nippon Koei Energy Europe B.V.（本社所在地：オランダ ロッテルダム、CEO：鈴木 雅登、以下「NKEE」）が事業主体となる、英国の約 100MW 相当の系統用大型蓄電池事業（以下、「本プロジェクト」）に参画致します。

英国では、再生可能エネルギーの普及に伴い電力系統安定化のニーズが高まっており、系統運用会社が市場から周波数や需給調整などの電力調整力*1 を調達する上でも系統用大型蓄電池の導入および活用が進められています。本プロジェクトは、英国の大手送電会社 National Grid が運用する送配電系統に接続し、電力系統の安定化サービス（アンシラリーサービス*2）を系統運用会社に提供することで、電力系統安定化に貢献いたします。電力市場へのアクセスはアグリゲーター*3として YUSO B.V.（本社所在地：ベルギー ワレヘム MD: Bart Pycke、以下「YUSO」）が担当、2021年12月に建設を開始し、2023年春頃の商用運転開始を目指します。また、芙蓉リース、テス・エンジニアリング株式会社（本社所在地：大阪市淀川区、代表取締役社長：高崎 敏宏）、東京センチュリー株式会社（本社所在地：東京都千代田区、代表取締役社長：野上 誠）、東芝三菱電機産業システム株式会社（本社所在地：東京都中央区、取締役社長：山脇 雅彦）が本プロジェクトの共同事業者として参画し、英国において日系企業の出資および融資による系統用大型蓄電池事業を実施する初の事業となります。

芙蓉リースは、本プロジェクトに出資するとともに、系統用大型蓄電池事業から得られる事業収入を返済原資とするプロジェクトファイナンスをアレンジし、シニアレンダーとして融資を行います。本件は、芙蓉リースが初めて取組む大型蓄電池事業となります。

芙蓉リースグループは、中期経営計画「Frontier Expansion 2021」において、「エネルギー・環境」と「海外」を戦略分野に位置づけており、脱炭素化の実現に向け、日本国内のみならず、米国・台湾など海外における再生可能エネルギー発電事業にも取り組んでおります。実績豊富な日本工営が主体となる本プロジェクトへの参画により得られた知見をもとに、日本国内でも順次拡大していく需給調整市場*4 等を見据えた取り組みやアライアンス先と連携したビジネス領域の拡大を進めてまいります。

芙蓉リースグループは、社会課題の解決に積極的に関与し、同時に企業としての成長を目指す CSV（共有価値の創造：Creating Shared Value）の考えを実践し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

<事業概要>

事業の内容	英国における系統用大型蓄電池事業
EPC ^{*5} 事業者	NKEE
O&M ^{*6} 事業者	NKEE
アグリゲーター	YUSO B.V.
本件事業のスケジュール	2021年12月 建設開始 2023年春 運転開始（予定）
事業実施場所	英国南東部に位置するTollgateおよびCuxton （蓄電池規模49.5MW×2）

- (※ 1) 調整力/停電や設備機器への支障を発生させないように、電気は常に需要と供給を一致させる必要があり、この需要の変化に合わせて発電所等で需要と供給を一致させるために必要な電力のこと。
- (※ 2) アンシラリーサービス/電源・送配電ネットワークが一体となり、瞬時に需給バランスを維持することにより、高品質かつ安定した電力の供給を維持する機能。
- (※ 3) アグリゲーター/送配電会社に対する周波数や電力需給バランス維持のために必要な電力の供給等を行い、電力の需給バランス維持に資するサービスを提供する事業者。
- (※ 4) 需給調整市場/2021年4月から開始された、発電所等での電気の需給調整に必要な電力（調整力）を全国一体的な市場で取引する制度。
- (※ 5) EPC/設計、調達、建設
- (※ 6) O&M/運用管理および保守点検



以上

お問い合わせ先

芙蓉総合リース株式会社 コーポレートコミュニケーション室（担当）木村・山崎

電話番号 03(5275)8891 URL <https://www.fgl.co.jp/>